

20 土 第184号

平成20年10月20日

国土交通省

道路局長 様

福島県須賀川市長 橋本克也



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼ありましたこのことについては、  
別紙のとおりです。

（担当）須賀川市建設部土木課

024-75-1111 内線341 宗形

- (1) 道路は、活力ある経済やゆとりある社会を実現するための最も基本的な社会資本であり、その整備を優先的に推進する必要がある。
- 特に首都圏をはじめとする都市部と比較し、立ち遅れている東北地方の道路整備は、住民の生活水準を確保する観点から、必要不可欠であり、安全な生活環境と活力ある地域づくりを確立するためにも、今後重点的に整備を推進する必要があることから、新たな道路の中期計画には真に必要な道路としてこの点を十分に反映すべきである。
- (2) 道路行政は、単に道路交通量などの指標による経済性や効率性の視点だけでなく、地域特性や道路の多様な役割を反映させた道路整備が必要と考えられる。本市においても、中山間地域では高度医療施設へのアクセスや過疎集落を維持するため、さらには、災害時の代替え交通路の確保のためにも地域の大きな課題であり、道路整備が急務である。
- (3) 本市の舗装率は、全国平均より低いこともあり、毎年住民から舗装の要望が多く寄せられ、厳しい財政事情から対応に苦慮している状況にある。このことから国における補助率の嵩上げ及び採択要件の緩和や補助メニューの拡充等について強く望むところである。
- (平成18年4月現在、市町村道舗装率の全国平均 75.9%、須賀川市 64.0%)
- (4) これまで長く念願して来た本市内、国道 118 号の松塚地区バイパス化事業が、福島県の事業主体により市町村合併推進債適用事業として、平成 19 年度から着手されたことは、地域住民と共に深く感謝を申し上げるところである。ついては、今後の事業推進と早期完成について特段のご高配を賜わりたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

福島県須賀川市

○ 現状

- (1) 平成 17 年 4 月の市町村合併により、旧長沼町・旧岩瀬村と合併し、「新市建設計画」に交通ネットワークの形成が盛り込まれているが、合併後3年経過した現在、早急な道路網の整備が急務である。
- (2) 市内の周辺集落と集落を連結する幹線道路に未整備区間があり、円滑な通行に支障を来している。
- (3) 市内の生活関連道路において、未舗装や側溝の未整備路線が数多くあり、日常生活に支障を来しているほか、歩道が未整備であるため、安心した歩行ができず、安全通行が確保されない路線が多い。
- (4) 道路整備は、地域間の交通アクセスの整備など市民交流を促進に必要不可欠であるが、財政状況により事業に取組めない。

○ 課題

- (1) 旧長沼町地域と市街地を結ぶ道路は、国道 118 号が唯一の幹線道路であり、本路線の松塚地区におけるバイパス化の事業が、県の事業主体により「市町村合併支援道路整備事業」に盛り込まれたが、早期完成に向けた事業推進が課題となっている。  
また、旧岩瀬村地域と市街地を結ぶ県道中野須賀川線も同様に合併に際し、重要路線としたことから、上記路線とともに早急な整備が望まれているところである。
- (2) 本市の舗装率は、依然として全国平均より低く、住民からは道路の舗装要望が多く寄せられているが、厳しい財政事情から対応に苦慮しているところである。

- (1) 道路などの都市基盤を整備し、市民生活における快適性、利便性、安全性の向上を図り、安全安心なまちづくりを目指す。
- (2) 自然環境や景観などに配慮した環境にやさしいまちづくりを推進する。
- (3) 地域住民と協働のまちづくりを推進する。

